

5月10日のウクライナ情報

安齋育郎

① ”まだ話す相手がいない”—ラブロフ外相(2024年5月6日)

「私は、ウクライナ、アメリカ、ヨーロッパの指導者たち、政治家たちの発言の例を挙げた。誰も真剣に話し合う準備ができていない。彼らは、スイスでの会議という形で、交渉のパロディーを演じている」とロシアのセルゲイ・ラブロフ外相は述べた。

「コペンハーゲン方式は完全に行き詰まっている。欧米諸国は、正義と悪、恐喝と嘘によって、最大数の発展途上国や南半球の国々をこの『座談会』に引きずり込もうとしている」と同外相は述べた。

そして、「ロシアが参加せず、最後通牒に基づいて、このようなイベントの無意味さを説明することだけを目的として参加する」国もあると説明した。

<https://twitter.com/i/status/1787355932776972397>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1787355932776972397?s=09>

② マリーヌ・ルペン曰く、マクロン大統領はオデッサにフランス兵を派遣しイメージアップを図ろうとしている(2024年5月8日)

私たちはこの問題、ウクライナ戦争についてサルコジやマリアーニのような感性を持っていない。

ウクライナ経済への支援を申し出た。ウクライナに防衛兵器を提供する事も申し出た。

しかし今日ではもはや十分ではない。

一方我々の党はレッドラインを引いた。

ウクライナがEUの一員になる事は望んでいない。

ウクライナをNATOに加盟させたくないし欧州レベルで核抑止力を共有しフランスの戦争ではない戦争に軍隊を送り込みたくない。

これらは非常に深刻な問題だ。

私はウィスキーのグラスを片手に、夜中の3時におしゃべりしている歌手に「オデッサに軍隊を送らざるを得なくなるだろう」と嘯くマクロンの無謀さに驚いている。

彼は自分のエゴ、個人的なイメージの為に軍隊を送りたがっている。

<https://twitter.com/i/status/1788159877736800657>



<https://twitter.com/Reloaded7701/status/1788159877736800657?s=09>

③5月9日、人民戦線は前線の兵士達に車や装備を購入し、届けた(2024年5月9日)

5月9日、人民戦線は前線の兵士達に車や装備を購入し、届けた。

これらはすべて「勝利のために！」による資金で賄なわれた。電子戦装備、ドローン探知機、熱画像カメラ、破片防止ブランケット。これらはロシア産業貿易省の100台の車に装備されたものである。

<https://twitter.com/i/status/1788074512032137618>



<https://twitter.com/tobimono2/status/1788074512032137618?s=09>

④ベルボック・ドイツ外相の弁(2024年5月8日)

これは我々の歴史からの教訓だ。まず第一に、私たち自身が侵略戦争を始めることは決してありません。私たちは平和的に問題を解決する。ヨーロッパ人として決してしないことだが、攻撃的な振る

舞いをするのではなく、平和的な秩序を守ること、それが我々の責任だ。ウクライナが自国と欧州の秩序を守れるように、我々が武器で強力に支援しているのはそのためだ。プーチンは、ウクライナでの戦争が終わりではなく、ヨーロッパの世界秩序を脅かしていることを明らかにしている』--ベルボックは、ウクライナ人の手による対ロシア戦争は何も悪いことではないと説明した。

<https://twitter.com/i/status/1788094208907383005>



<https://twitter.com/Z58633894/status/1788094208907383005?s=09>

⑤ウクライナ南東部はなぜ分離独立を決断したのか？マイダン革命 2014/02/23 (回想視 2022年6月14日、復習のために)

<https://youtu.be/My2fd0Ri4Vg>



<https://www.youtube.com/watch?v=My2fd0Ri4Vg>

⑥ロシア、中国に続きインドも、ドル決済から離脱！（2024年5月8日）

BRICKS 諸国のドル離脱が始まる！



<https://twitter.com/wangon2010/status/1788095252689310055?s=09>

⑦特別軍事作戦 5月8日の概要 露国防省(2024年5月8日)

ロシア軍はドネツク人民共和国ノヴォカリノヴォ村、ハリコフ州キスロフカ村を解放した。

- ◆ ロシア軍中央方面隊は過去 24 時間でウクライナ軍の 11 度の反攻を退けた。ウクライナ軍のは最多で 415 人の人員を失った。
- ◆ ロシア軍南方面隊の戦闘ゾーンでウクライナ軍は過去 24 時間で最多で 355 人の人員を失った。
- ◆ ロシア軍は過去 24 時間でウクライナ軍第 101 領域防衛旅団のドローン製造工場、弾薬およびミサイル発射装置、大砲の保管庫を破壊した。
- ◆ ロシア軍中央方面隊は独戦車レオパルト 1 台を破壊した。
- ◆ ロシアの対空防衛システムは過去 24 時間でウクライナ軍のドローン 11 機、米国製地对地ミサイル MGM-140 ATACMS1 発、仏 AASM 長距離精密誘導ミサイル AASM(ハンマー)3 発を迎撃した。



https://twitter.com/sputnik_jp/status/1788179524238102558?s=09

⑧[RusNews]ニキータ時事ネタ水曜版です(2024年5月8日)

<https://youtu.be/RYP4QbuE0oQ>



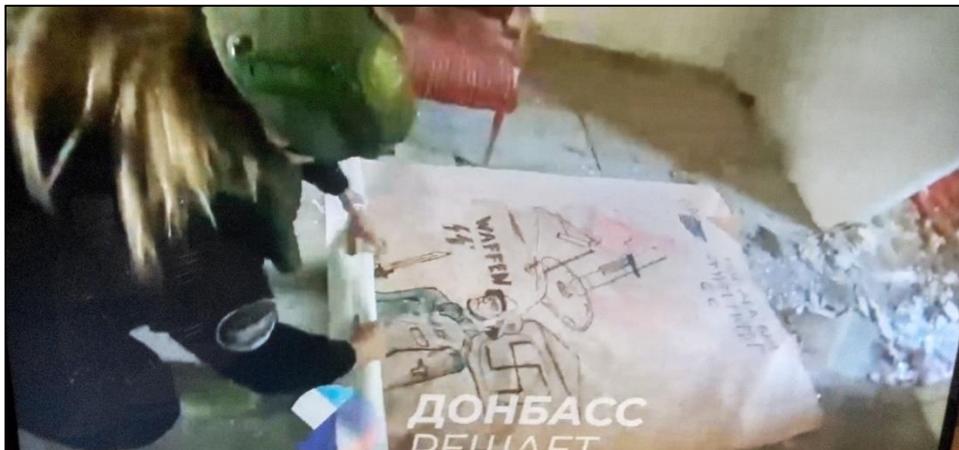
<https://www.youtube.com/watch?v=RYP4QbuE0oQ>

⑨解放されたアウディウカのウクライナ軍配備場所で、ロシア兵士がナチスのシンボルが描かれたポスターを発見(2024年5月8日)

この重要証拠は捜査当局に引き渡されることになる。

「このポスターを踏みにじっても構いません。私たちはこれに注意しているので、それは不快です」と私たちの軍人は言います。

<https://twitter.com/i/status/1788126301699895436>



<https://twitter.com/zov vs nato/status/1788126301699895436?s=09>

⑩なかなか交代できないウクライナの熟練兵、自分たちが休暇をとれば「経験の浅い兵が大勢死ぬ」BBC News Japan, 2024年5月8日)



東部前線の近くで塹壕を掘るウクライナ部隊の砲手たち

ジェイムズ・ウォーターハウス、BBC ウクライナ特派員、ドネツク州

春を迎えたウクライナでは、新緑が豊かに生い茂る。その緑陰に紛れて、砲兵部隊が待機している。部隊は、製造から50年という年季の入ったランチャーからロケット弾を発射する。しかしそれは、彼らの任務のごく一部にすぎない。砲兵隊はもっぱら、丘の中腹に新しい塹壕(ざんごう)を掘ることに時間をかけている。

兵器の数でも兵士の数でも侵略者ロシアに劣るウクライナ部隊は、東部ドネツク州で、ロシア軍から5キロ離れた場所にいる。そのロシア軍は、じりじりと迫ってきている。

アメリカから届く弾薬が、ウクライナ部隊の助けになるだろうと期待されている。ただし、兵士増員の課題に対するウクライナ政府の取り組みには、異論も批判もある。

ウクライナでは4月、兵士動員に関する改正法が成立した。法案に当初盛り込まれていた、動員兵は3年後に動員を解除されるという条項が、軍の要請を受けて削除されたため、動員が無期限になっていると批判を浴びた。

そして今、長引く戦いに疲弊する兵士たちは、軍は徴兵のやり方を「再考」する必要があるとBBCに話した。

ウクライナ政府は補充要員を見つけるために徴兵年齢も引き下げている。これは単なる数遊びではない。



ウクライナ軍第21独立機械化旅団の無線オペレーター、アレクサンドルさんは、やる気のある兵士は、質の高い訓練から生まれると考えている

第21独立機械化旅団の無線オペレーターを務めるアレクサンドルさんを含め、何万人もの熟練兵は、まともな休みも取らずに、この2年間の大半を戦い続けてきた。

「私たちが家に戻れば、経験の浅い兵士たちでもロシア軍との戦線を維持できるかもしれないが、その多くは死んでしまう」と、アレクサンドルさんは言う。

アレクサンドルさんは、ほかの4人の兵士と寝泊まりする塹壕の中で、受話器を軽くたたく。塹壕の中の空気はよどんでいて、兵士たちがいかに長時間ここで暮らしているかがわかる。

壕の外に広がる森林の光景から、ここは平穏な場所なのかと錯覚しそうになる。その錯覚は定期的に、ひゅうっと頭上を飛んでいく砲弾の音に破られるのだが。



昨年の今ごろは、春が来て土が固まれば、待望の反転攻勢が始まるという期待感があった。

ウクライナでは冬に地面が凍結するが、春になると乾いて固まる。つまり、人員や装備を動かしやすいくなるのだ。

しかし今年の春は様子が違う。地面が固くなった分、地面を掘って防衛拠点を作る部隊の作業が、難しくなっただけだ。

「うちの兵士はそれはもう長いこと戦い続けてきたおかげで、(この任務の)プロになった」と、司令官は誇らしげに言う。

司令官のコールサインは「シチュ」。迷彩ネットの下にある移動式ロケットランチャーを指さす。

「一台一台、女性のようなものだと、兵士たちは分かっている」と司令官は言う。「それぞれに個性がある。独自の癖や特徴がある」。



ウクライナ部隊が使うロケットランチャーは、製造から 50 年以上たっている

安全な場所に隠されている 1970 年代のトラックは、ウクライナ軍の現状を象徴する。なにかと旧式だが、GPS 誘導システムなど新しい技術も備えている……とはいえ、ロケット弾という不可欠な要素が欠けている。

対するロシア軍は、現代の戦争技術の粋を集めたとは言えないながらも、ウクライナ東部前線の複数力所で前進している。ウクライナが新しい塹壕を 30 キロ後退して掘っているのはそのためだ。

侵略軍はこれまでの経験から戦術面で学習し、制空権を握っている。ロシア政府は武器の製造量も大幅に増やし、ウクライナを上回るスピードで兵士を動員している。

それでもウクライナ政府は「必要な限り戦い続ける」と繰り返すし、森の塹壕にいる兵士たちの思いも一緒だ。

私たちが取材する兵士たちは、完全に自由に話すわけにはいかないと思っていたかもしれない。

しかし、ウクライナ東部クラマトルスクの中央広場で会った衛生兵のイリアさんは、比較的周りを気にせず話してくれた。

イリアさんは、入隊するとはどういうことか、軍は正直に説明してこなかったと言う。

徴兵担当者が、入隊後最初の 6 カ月間は「超ハード」だが、その後はより専門性の高い特定の役割に応じた訓練が受けられると説明すれば、もっと効果的に人員を確保できるはずだと、イリアさんは主張する。

「歩兵は軍の中で最もハードな仕事だ」

イリアさんはくたびれているものの、戦闘中に恐怖で硬直した徴集兵と塹壕で隣り合わせになるのは、うれしくない事態だとも言う。戦場の現実について透明性が欠けていることが、志願者が増えない一因だとも考えている。

「この戦争が10年続いたらどうする」



ウクライナのソヴスン議員は、兵士動員に関する改正法案の議決に棄権した

私たちは、兵士動員法案の議決に棄権したインナ・ソヴスン国会議員に話を聞いた。キーウで、議員のいつものジョギングコースを一緒に回りながら。

ソヴスン氏のパートナーは最前線で、衛生兵として働いている。

「彼が今どこにいるのか、毎晩のように心配している」と、同議員は言う。「何百万人ものウクライナ人と同じように」。

ソヴスン議員は兵士のローテーションにもっと注力すべきだと考えている。ウクライナには、現在戦線にいる兵士約50万人と交代できるだけの、徴兵年齢に達した男性が十分いるからだ。

「(新兵とは)交代させられない、高度な訓練を受けた兵士もいるが、塹壕にいる兵士はどうだろう」と、ソヴスン氏は問いかける。「訓練には時間がかかるが、この戦争が10年続いたら、どうするのか」。

「私たちは、開戦初日から従事してきた人たちに頼るふりはできない」

ウクライナ軍の採用はこれまでのところ、過去の汚職疑惑や志願者の減少がネックになっている。

閣僚たちは現在、二つの重要目標を追求している。徴兵制度への信頼を回復すること。そして、男性に対する従軍圧力を高めることだ。

現在の戦況はウクライナに不利だ。それだけに、政府は二つの目標をなかなか実現できずにいる。

(追加取材:ハンナ・チョルノス、サンヤラット・ドクソネ、アナスタシア・レフチェンコ、ハンナ・ツイバ)

(英語記事 Ukraine War: 'If we go home, a lot of inexperienced soldiers will die')